



小平市立上宿小学校

CSだより

令和4年 6月 1日

会長 羽根田 厚子

校長 内 藤 章

学校経営協議会だより 令和4年度 No.3



5月18日(水)は、今年度初めての学校公開でした。保護者の皆様も、「わが子の学校での様子を、久しぶりに見ることでよかった」という思いをもった方が多いのではないのでしょうか。

今後、運動会などの行事についても、子どもたちが活躍する様子を見ていただけるようになることを願っております。

さて5月18日(水)は、第2回学校経営協議会も行われました。そこで話し合ったことについてお知らせいたします。



学校公開 セーフティ教室の様子



先生方と顔合わせをしました。

会議の冒頭、上宿小の先生方にも出席してもらい、顔合わせをしました。学校と地域が連携し、「地域とともにある学校」を目指していくためには、お互いに話ができる関係をつくっていくことが大切です。次回の協議会では委員と先生方とで話し合いを行い、思いの共有を図っていく予定です。



各プロジェクト・ミーティング

3つのプロジェクト・チームに分かれて、今年度どんな取り組みができるか、話し合いました。それぞれのプロジェクトで構想が進んでいます。学校便り「かみじゅく」の1面に、その内容をお載せいただいています。どうぞご覧ください。

CS子育てリレーコラム



育む HAGUKUMU

第4回：CS委員 小平神明幼稚園 理事長 宮崎和美

「人間として育つ - 対話力 -」

コミュニティー・スクール(CS)活動に加わらせていただいて、親の時とは違った視点から子ども達の育ちを知ることが出来、学校時代の育ちあう力の素晴らしさを痛感しています。

「人間として育っていく」には様々な点が挙げられるでしょうが、その大事な一つが「対話力(コミュニケーション力)の育ち」です。学校生活では、先生方の巧みな教科研究で興味津々、具体から抽象(個別から普遍)へ、そして抽象化された課題を受け止めて考え合い話し合う生活が多くなると思います。図書の世界と現実の世界の行き来も多くなります。しかし幼児期では、物を仲立ちとして対話力の育ちを保障する環境がとても大切です。

しんめい幼稚園には10数年前から、「可動遊具(かどうゆうぐ)」と言っているものがあります。実体は酒屋さんから譲っていただいた沢山のお酒のケースと長さ2m幅20cm厚さ2cmの板です。子どもの力でも運べるものです(ただし崩れたり上から落ちたりする危険も伴うので、保育者が必ず一人付くことにしています)。年中のA君は幼稚園に来ると担任を呼んで、「可動遊具」遊びを始めました。お酒のケースを運んで並べて板を敷いて……イメージに基づいてテキパキとやっています。「ここに板を掛けるのが難しいんだ」……「自己内対話のツブヤキ」が聞かれます。クラスのB君・C君・D君も加わって、「こういう風に繋げて」とか「もっと長くした方がいいと思うよ」とか共同作業が始まりました。幼稚園時代にはこんな、具体物を仲立ちとしながら「対話力」が育つ生活をしています。

「可動遊具」では、ケースで枠組みを作った上に板を並べて舞台にしたり、2階建て3階建てを作ったり、長く並べて橋やアスレチックを作ったり、キッチンやレストランの厨房にしてお料理ごっこをしたり、年齢や参加する子どもたちによって、また毎回異なる活動が可能です。「～したい!」の「おもい」があって、実現するために「おもいの共有」と「対話の育ち」があって、「共同の作業」がある。数人のなかまの存在を必要とする、なかま関係の心地良さを育てる……優れた可能性を持った「遊具」と捉えています。

CSの活動は、学校の子ども・保護者の子ども・地域の子どもと、どれもが主体者として信頼関係を芯としながら、子ども達の学齢期をより力強くより豊かにしていく共同・協力活動だと思います。共によりしくお願いいたします。

